

大学教育学会第38回大会
ラウンドテーブル(2016.6.11)

山口大学における学修成果アセスメント ～ 三つのポリシーの見直しとAP事業の射程～

山口大学

大学教育機構 大学教育センター准教授・IR室長

林 透

メニュー

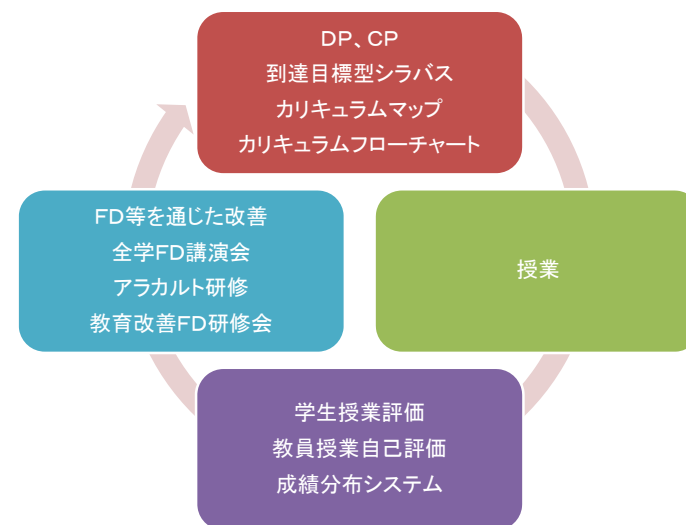
- 背景・経緯
- 山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)による学修成果アセスメント
- 新しいカリキュラムシステム(YU CoB CuS)による学修成果アセスメント
- 総括・方向性

1

背景・経緯

2

教育の内部質保証システム（従前）



3



◆文部科学省・大学教育再生加速PG

テーマ ・ 複合型 採択(平成26年度)
 アクティブ・ラーニングによる主体的学びの促進
 学修到達度調査・学修行動調査の全学実施

◆国立大学機能強化経費等の採択(平成27年度)

YU CoB CuS(Competency -Based Curricular System)の導入
 自己主導型学修総合電子システム(eYUSDL)の開発 ほか



• FD研修からFD・SD研修へ

全学SDセミナーの導入ほか、FD・SDの一体的実施
 講演会形式 ワークショップ形式



• 学生参画、Student Engagementの重視

学生を参画させ、組織開発的アプローチにて理念共有・意識改革

共育ワークショップ2014
 (組織開発プログラム)のーコマ



創基200周年記念

山口大学 共育ワークショップ2014
 「みんなで山大的教育(共育)について語ろう!」

●コンセプト
 山口大学の教育(共育)について、教員、職員、学生が一緒になり、様々な観点から語り合い、考えてみよう。
 大学というコミュニティでは、本来、教員、職員、学生が等しく市民権を有していると考えなければならない。教員が学生を教えるという場面もあれば、教員が学生から教えられる場面があるというのが大学というコミュニティの醍醐味であろう。大学教育とは、教員、職員、学生が共に創り上げるもの(共創)であり、かつ、共に育み合うもの(共育)です。

●アプローチ
 山口大学では、「美しいはぐみかたちにする」を教育理念に掲げ、次の時代を切り拓く人材育成に取り組んでいます。
 さて、改めて、教員、職員、学生の立場に立って、「美しいはぐみかたちにする」ということの意味を考えてみませんか、ワールドカフェ形式のグループワークを通して、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。所属や立場を超えた参加者同士の対話を通して、「美しいはぐみかたちにする」ためのアクションプランを考えてみます。教員、職員、学生の共創を通して、山大的教育(共育)をより豊かなものにしていきましょう。

●開催日時
 9月22日(月) 13:30~17:00
 ※ワークショップの詳細は募集要項
 (詳しくは情報交換会(懇親会)をご覧ください)

●場 所
 社会図書館アカデミック・フォレスト

●対象及び定員編成
 本学の教員、職員、学生(計約70名) 60名程度



山口大学・大学教育再生加速プログラム
 (YU-AP)による学修成果アセスメント

【全体像(学びの好循環)】

大学等名：山口大学

テーマ：テーマ（アクティブ・ラーニング）（学修成果の可視化）複合型



【山口大学改革プランを加速！】…山口大学は、正課教育と正課外教育の共創により、共通教育を中心としたアクティブ・ラーニングを組織的に推進し、次の時代を切り拓く人材として必要な「山口大学生コンピテンシー」の修得を保障するため、先進的な学修成果可視化モデルの構築を行い、学生の学びの好循環を創出する。

事業実施体制の整備

学長を中心とした体制
下図の実施体制を新たに設置し、学長・副学長のガバナンスのもと、教職員・学生が一体となって教育改革に取り組む。

YU-AP事業推進委員会
学長を中心とした委員会(教育担当副学長、教職員・学生)



プログラムコーディネータ

正課教育(共通・専門教育)、正課外教育

【学びの好循環】



テーマ（アクティブ・ラーニング）

共通教育すべてをアクティブ・ラーニング(AL)化[22科目 40科目以上]
ALポイント認定によるシラバスの見える化、ベストティーチャー表彰によるインセンティブ
AL推進専門集団「AL推進チーム」の形成

テーマ（学修成果の可視化）

学部生すべてを対象に学修到達度調査・学修行動調査を実施
授業科目間の成績評価基準の平準化のため、ルーブリック評価を実施
直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルの発信

山口大学生コンピテンシー「驚き、個性、出会い、夢を発見し・はぐくみ・かたちにする人材の育成」（教育理念）

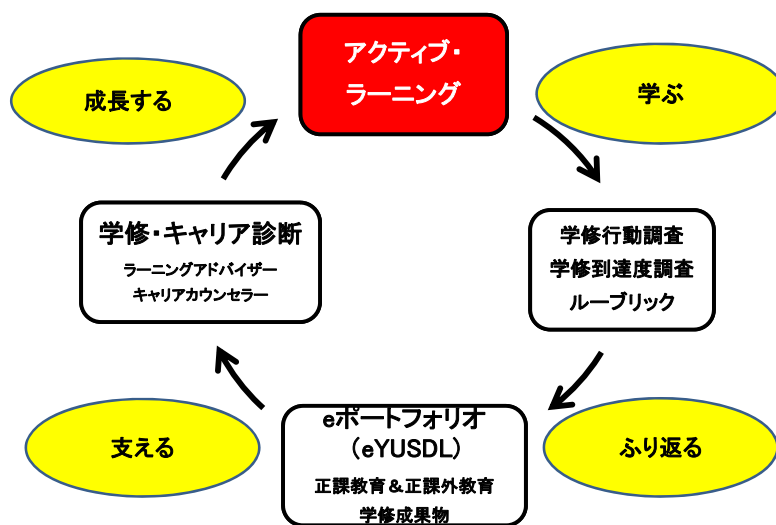
- 驚き・・・世界や社会にいつも驚きを感じ、過去・現在・未来に問いを差し続ける力【課題発見力・発信力】
- 個性・・・自分を発見し、はぐくみ、世界でたったひとつの存在になる力【主体性・状況把握力】
- 出会い・・・自分を超越してひとに出会い、出会いをはぐくみ、つながりを築く力【傾聴力・働きかけ力】
- 夢・・・過去を受け継ぎ、現実を見つめながら、夢を発見し、夢をはぐくみ、夢をかたちにする力【創造力・実行力】

【成果指標】	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	22.7%	100%	100%
学生の授業外学修時間(1週間あたり)	3.88時間	4時間以上	5時間以上
アクティブ・ラーニング型の正課外教育プログラムの実施数(全学対象)	10プログラム	15プログラム	20プログラム

【事業の成果】

- アクティブ・ラーニングを組織的に推進し、教員の教育力向上と学生の授業外学修時間確保に努め、山口大学改革プランを加速します。
- 個々の学生が学びによる成長を実感できるように、学修成果可視化モデルの構築を行い、学士課程教育の質保証を推進します。

山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）
“ 学びの好循環 ”



ALポイント認定制度を通したALの動機付け



ALポイントを通した授業内学修行動の可視化

- ①多くの教員がアクティブ・ラーニングを担当
- ②学生の授業外学修時間の増加

ALベストティーチャー表彰制度の創設

FDコーディネーターの形成

ALポイントを通した
●授業内学修行動の可視化

$$ALポイント = (アクティブ・ラーニング(AL)度の総和) \div (授業回数)$$

ALポイント認定制度の全学展開

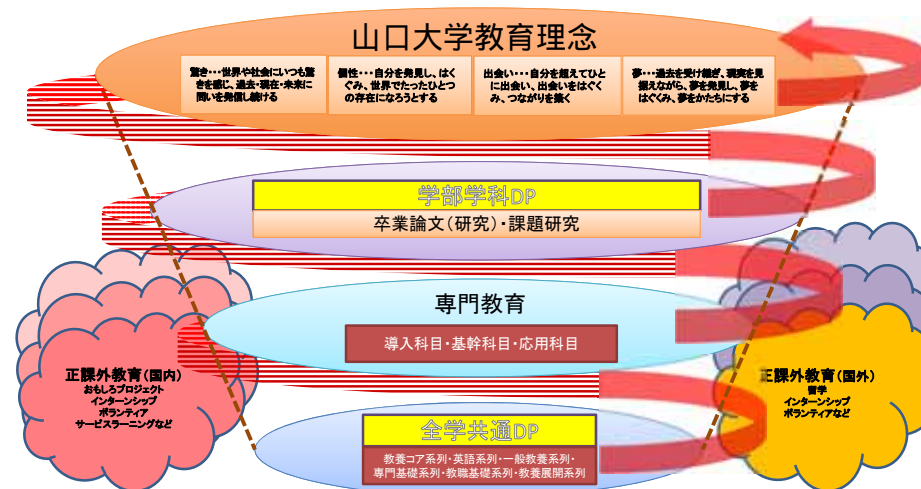
	平均値	入力率
【共通教育科目】		
平成27年度	4.28	80.5%
平成28年度	4.30	80.4%
【学士課程全体】		
平成27年度	4.46	50.0%
平成28年度	4.46	60.7%

平成28年度速報値

山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) による学修成果アセスメント

【全学教育目標の明確化と汎用的能力のアセスメント】

山口大学教育理念と 学士課程教育体系(正課教育・正課外教育の共創)



教育理念に依拠した学修成果アセスメント (山口大学生に期待される汎用的能力)



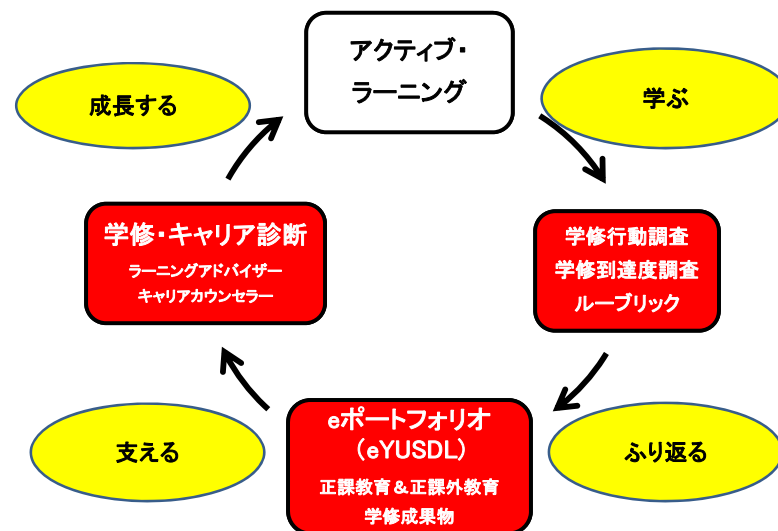
図1 教育マネジメントの循環 Diamond(2008, 148, Figure13.2)を参照し作成

出典: 鳥居(2014)『共通教育における 質保証のマネジメント』の研究目的・計画・ 進捗状況について』『大学教育学会誌』 第36巻第1号、pp.75-77

山口大学・教育理念の整理(2015年5月教育研究評議会了承)

「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の意義	教養教育において 育成される力	専門教育において 育成される力
【驚き】 世界や社会にいつも驚きを感じ、過去・現在・未来に問いを発し続けます。	【驚き】: 驚きを大切に、「自ら」が考え・判断・表現・発言する能力を養います。	【チャレンジし、解決する力】: あらたな問題や困難にチャレンジし、解決する力を養います。
【個性】 他人と競争し、打ち負かすのではなく、自分を発見し、はぐくみ、世界でたったひとつの存在になります。	【個性】: 個性を大切に、心身ともに豊かな人間性と「美」を発見するところをはぐくみます。	【自分を活かす力】: 専門家としての知識や能力を身につけ、自分を活かす力を養います。
【出会い】 自分のうちに閉じこもらず、自分を超えてひとに出会い、出会いをはぐくみ、つながりを築きます。	【出会いと交流】: 出会いと交流の中で、歴史と伝統を重んじつつ、異文化を受け入れるところを養い、地域社会と国際社会への責任感や義務感を培います。	【専門分野を超えて考え行動する力】: 専門性を活かし、さらに分野を超えて、人々の幸せや社会・環境全体のあるべき姿について、考え行動する力をはぐくみます。
【夢】 過去を受け継ぎ、現実をみすえながら、夢を発見し、夢をはぐくみ、夢をかたちにします。	【夢】: 夢を描き続け、自らが生涯を通じての「知の探求者」になる「礎」を築きます。	【世界にはばたいて活躍する力】: 国を超えた多くの人々と出会い、世界にはばたいて活躍する力をはぐくみます。

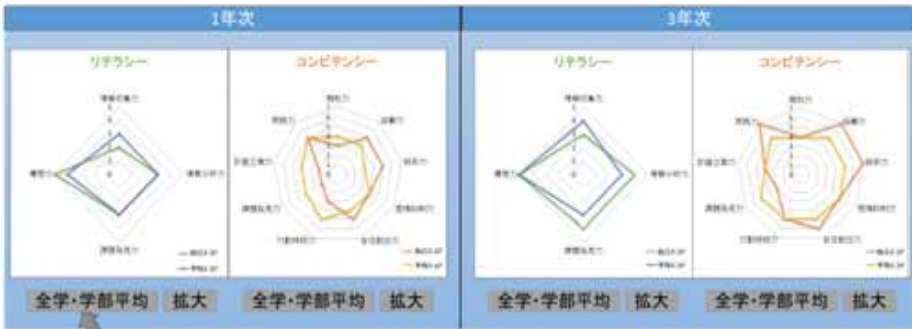
山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) “学びの好循環”



自己主導型学修総合電子システム (eYUSDL) における可視化【汎用的能力】



汎用的能力の可視化 (PROGテスト結果イメージ)



※ レーダーチャート下部のボタンをクリックするとリテラシー、コンピテンシーの全学・学部平均を示した表をPDF等の形式でダウンロードができ、自身のレベルが全学・学部内でどこに位置づけられるかが把握できる。

※ 1年次と3年次の結果をレーダーチャートで表示し、拡大ボタンをクリックするとチャートを拡大できる。また、チャート下部に一覧表も示す。

新しいカリキュラムシステム (YU CoB CuS) による学修成果アセスメント

YU CoB CuS (Competency-based Curricular System) の仕組み (重み付けカリキュラム・マップ)



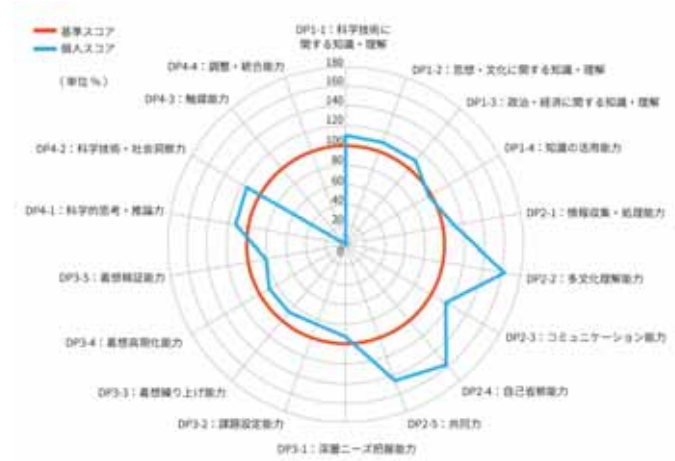
YU CoB CuS (Yamaguchi University Competency-Based Curricular System) 概念図

学修科目の名称	単位数	授業形態	コア能力										DP				
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
基礎教育コア	1,070	112	425	1,115	580	425	440	405	555	385	400	365	1,015	910	550	900	11,000
専門教育コア	3,216	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	11,000
国際教育コア	3,200	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	11,000

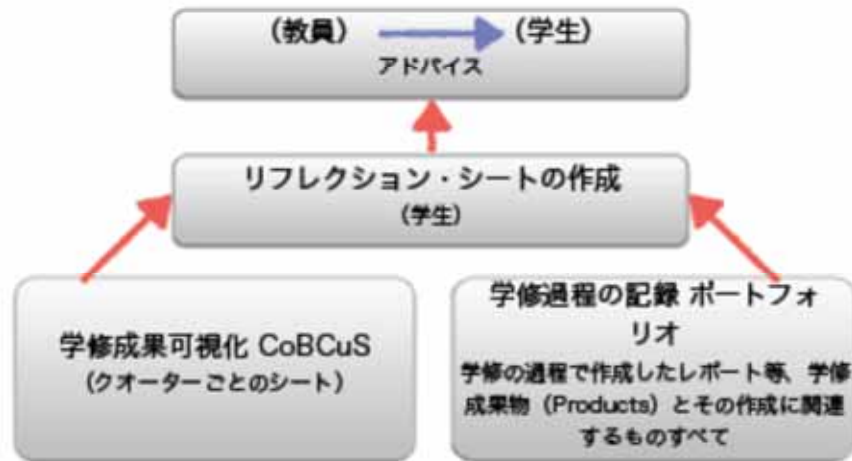
2015年設置の国際総合科学部での運用方針 (今後、平成31年度末までに全学展開)

- (1) 全ての科目で、それぞれの科目の持つディプロマ・ポリシー (DP) への貢献度を数値化する
- (2) 当該科目におけるDP項目への貢献度 (DP貢献度) に成績係数 (秀: 1.4, 可: 0.8等) を乗じて、単位取得により得られるCoB CuS (CB) ポイントを算出する
- (3) 学生が単位を修得した全ての科目のDP項目別ポイントについて総和をとる
- (4) DP項目の獲得ポイントが修了要件ポイントを満たし、かつ、卒業要件単位数を満たした場合に課程を修了

自己主導型学修総合電子システム (eYUSDL) における可視化【DP達成度】



出典) 山口大学国際総合科学部HP「YU CoB CuSについて」
http://gss.yamaguchi-u.ac.jp/yu_cobcus/



出典)川崎(2015)YU CoB CuS学内研修会資料

総括・方向性



I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

【中期計画1】 本学の学生が卒業までに修得すべき能力の到達度測定の方針（アセスメント・ポリシー）を明確化するとともに、平成31年度までに授業科目ナンバリング（授業科目に番号を付し分類することで教育課程の体系性を明示する仕組み）等を整備し、ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）に基づく体系化された教育課程のさらなる充実に取り組む。

・【年度計画1】カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの見直し等を行うとともに、山口大学生が卒業までに修得すべき能力の到達度測定の方針（アセスメント・ポリシー）を明確化する。

山口大学における3つのポリシー見直しの方向性

【平成28年度中の課題】

★YU CoB CuS適用に向けたディプロマ・ポリシーの見直し
(大項目・小項目の設定)

★ディプロマ・ポリシーの見直しに伴う
カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直し

★YU CoB CuS適用に伴う学位プログラム化へシフト

★YU CoB CuSと学修到達度調査の相互連携による質保証


アセスメント・ポリシーの明確化

24

ご清聴いただきまして
ありがとうございました

「志」つなぎ 伝える
二百年



Contact me : toru-h@yamaguchi-u.ac.jp

25